

麻生区の現状について

あさお希望のシナリオ実行委員会 田中 元介

(1) 麻生区の現状と未来予想

麻生区は住みやすい街です。

自然が豊か、健康・長寿、犯罪・交通事故・火災発生数が少ない、芸術・文化のイベントが盛ん、地域活動への参加者が多い、生活環境の満足度が高い、といった特長があります。

しかし未来を予測すると、決して明るいことばかりではないように思われます。

その主な要因は、少子・高齢化です。

日本は、世界一長寿の国です。（2020年の平均寿命 男性81.64歳、女性87.74歳）

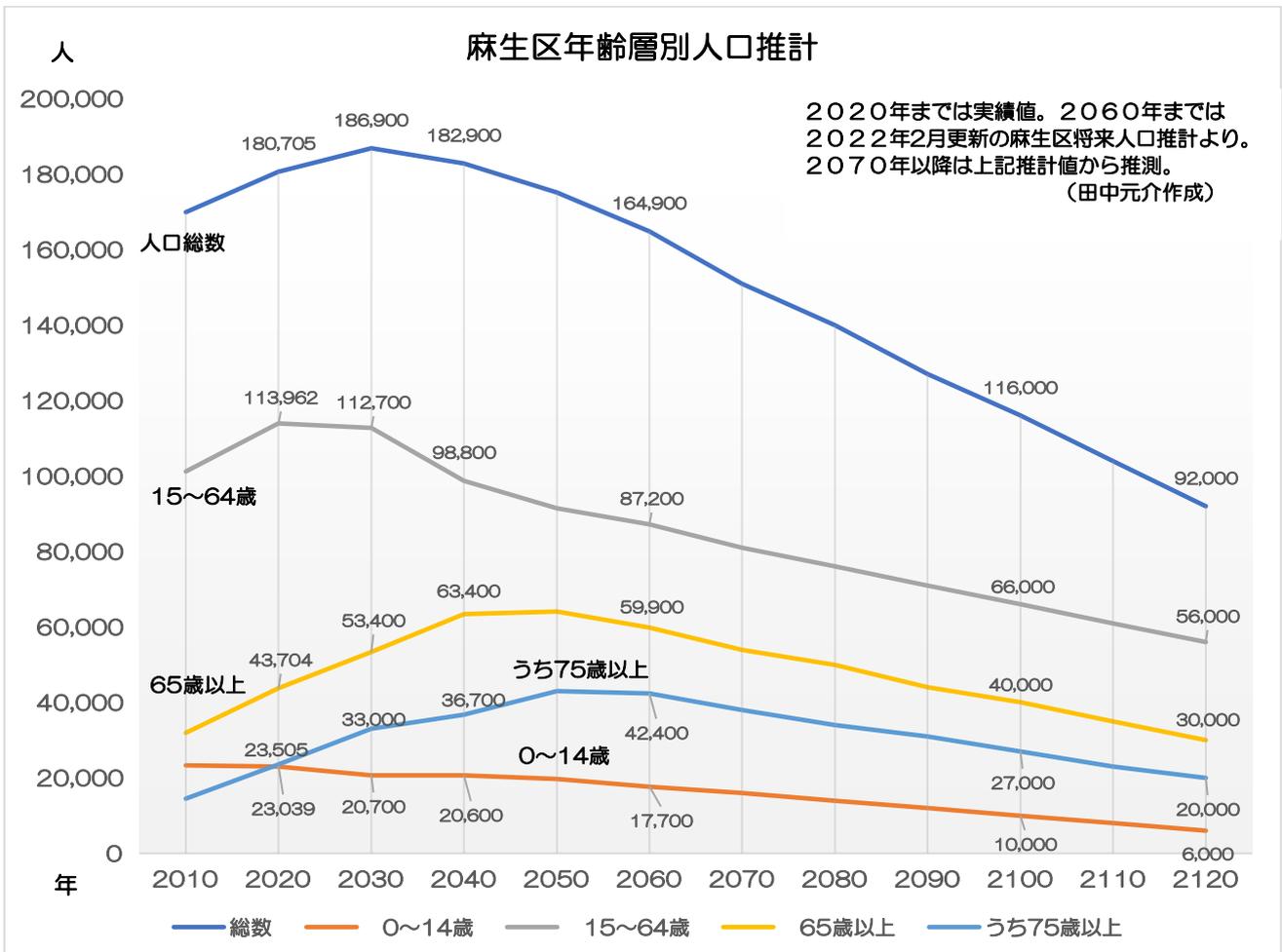
その中でも麻生区は、横浜市青葉区と並んで日本一長寿の街です。（2015年の国勢調査の平均寿命 男性83.1歳、女性88.6歳）

日本の高齢化率はダントツで世界一です。（1位 日本28.7%、2位 イタリア23.3%）

その中で川崎市は、大都市の中で最も平均年齢が低く、若くて活気のある都市です。

麻生区の高齢化率も、2020年は24.2%と全国平均以下でした。しかし、今後急速に高齢化が進み2030年には団塊の世代が全員80歳台に、2040年には全員90歳台になります。

麻生区は長寿ということもあって、高齢化率が2030年に28%、2040年には35%と急上昇し、3人に1人が高齢者という時代を迎えます。



人類の歴史で、このような年齢構成の社会を経験したことは一度もありません。

また、このような社会への変化が急速にもたらされることも、対応に困難が伴う一因です。

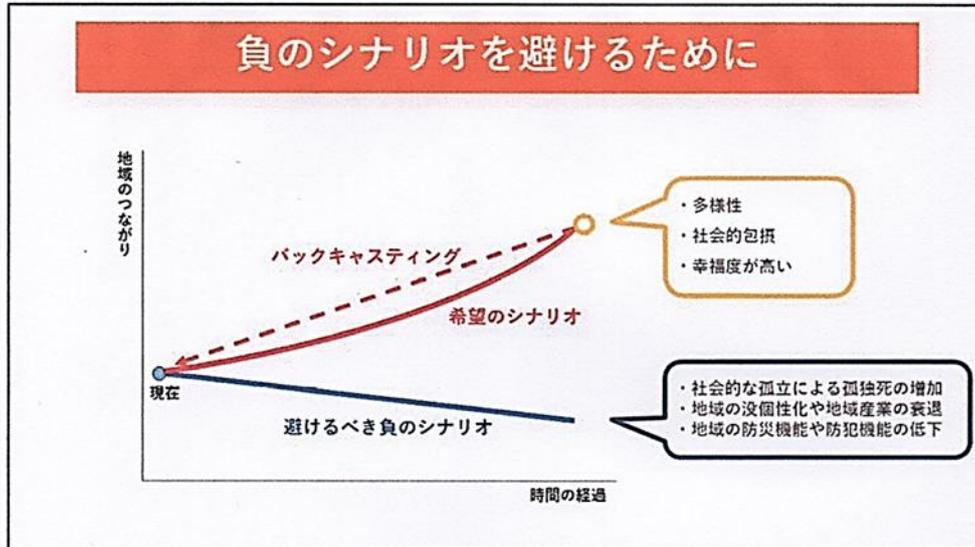
高齢化への対応は、先進国共通の課題です。日本がどのように豊かな高齢社会を築いていくか、世界中の国が注目しています。その中で麻生区は急速に高齢化が進む典型的な街です。

少子化への対応も、先進国共通の課題です。

コロナの影響か、出生率が低下傾向にあり、少子化が更に進んでいるようです。（国立社会保障・人口問題研究所が2017年に発表した2021年の出生率予測値（中位）1.4234、実績値1.30）

(2) 取り組みの全体像

あさお希望のシナリオプロジェクトでは、現状・未来予想を踏まえ、活動を進めてまいります。予測される未来を踏まえながらも、現在の延長線上で考えるのではなく、麻生区の未来のありたい姿を描き、そこから逆算で今から何を課題に、どういう方法・スケジュールで推進するかを考えて実行するという、バックキャストिंगの手法で取り組んでいきます。バックキャストिंगの手法は、21世紀の自動車像（ハイブリッド車）の開発や、SDGsで活用されています。



「これからのコミュニティ施策の基本的考え方（平成31年3月 川崎市）」より引用

本日の「麻生区の未来のありたい姿に向けて」は、21世紀の自動車像（ハイブリッド車）の開発における最も関心の高いカテゴリー（燃費の良い車）を選ぶための、アイデア募集のステップに相当します。

「21世紀の自動車像」におけるテーマの推移

テーマ	21世紀の自動車像（ハイブリッド車）
アイデア募集 （最も関心の高いカテゴリーは？）	1993/9 G21 PJ スタート（Gは地球、21は21世紀）
最も関心の高いカテゴリーの絞り込み	1993/末 室内が広く、「燃費の良い車」
そのカテゴリーを、実現するための方策	燃費1.5倍・20Km/Lの車を開発
PJ結成、スタート	1994/2 G21 PJ 正式スタート
ありたい姿のプロトタイプ（原型）	1994/11 ハイブリッド車 燃費2倍（28Km/L）の車
目標課題と達成時期を決定	1995 ハイブリッド車を開発、東京モーターショーに出品。 1997 発売目標
全ての資源を活用して推進	1996/3 ハイブリッド・システム完成。1997 発表、発売

※ 今後の検討にあたっては、BS、連想法、発展的思考法、因果関係法、コンビネーション法（神原 理「ビジネス・アイデア・ストーミング」参照）、QC手法を活用する。

取り組みの全体及びブレインストーミングの企画・進行等について、専修大学商学部教授 神原 理先生のご指導を仰ぎ、お世話になってまいりました。この場を借りて、御礼申し上げます。